

113大正時代 第一次世界大戦と政党内閣 寺内・原



ビリケン人形



寺内正毅

< 第二次 寺内 内閣 >

寺内は山県・桂太郎に次ぐ長州閥の巨頭です。この超然内閣を世論はビリケン（非立憲）内閣と呼びました。

大戦の勃発→ 金本位制を停止

連合国は軍需品輸入のため貿易赤字になるので、いったん金本位制を停止、日本もそれにならって停止しました。

連合国と協調

・連合国の求めで 地中海 に駆逐艦派遣
イギリス輸送船を護衛。ドイツ軍潜水艦を見つけると果敢に攻撃、追い払う。日本駆逐艦も59名の犠牲を出した。

・中華民国(段祺瑞 政権)も連合国側に
袁世凱政権の後継です。

立って参戦

→ 西原借款 で 段祺瑞 政権を支援
寺内の秘書の西原亀三を通して1億4500万円を融資しました。後に段政権は倒れるので、回収不能になりました

・同じ連合国のアメリカ合衆国と協調

…大戦中に 石井ランシング協定

日本特使石井菊次郎と國務長官ランシングの間の協定。
日本はアメリカの求める「中国の領土保全、門戸開放の原則」を守ると誓いました。アメリカは日本の防衛上大切な満蒙の排他的な 特殊權益 を認めました。矛盾ですね。

1917 ロシア革命

日本と仲良しのロシア帝国、革命で倒れる
資本主義国である英米仏の連合軍は、社会主義のソ連政権をつぶすべく干渉戦争を仕掛けました。そしてチェコスロバキア兵救出を名目に、日本にも共同出兵を求めました。

→寺内、 シベリア出兵 を宣言

工業化で米価高騰傾向だったところで、シベリア出兵を見こした米の買い占め・売り惜みが発生しました。

1919 米騒動 (越中女一揆)

漁村の多い 富山県 で最初に発生、全国38府県70万人が立ち上がりました。寺内内閣はのべ10万人の軍隊を出動させて鎮圧、多数の死者も出て、国民に軍隊が銃を向けるという行為に世論の非難が高まりました。

< 原敬 内閣 > ヴェルサイユの原

ついに元老山県も、超然内閣では持たないと政党内閣を認めました。第1党の党首で自らも衆議院議員という総理大臣は初めてです。原は戊辰戦争で薩長に敗れた岩手藩家老出身なので伯爵などの爵位を持たず、士族でもなく平民だったので 平民宰相 と世論から歓迎されました。



1918 大学令 公布

工業化、産業の高度化にともなって需要が増大していた高学歴人材を供給するためです。従来帝国大学だけが大学だったのを、私立大学や単科大学も正式に大学として認可しました。東京専門学校→早稲田大学

1919 小選挙区制 導入(大政党内閣)

納税資格を直接国税 3円 以上に

※原は普通選挙の実現には冷淡。

大学に勝算あり!

大学令、小選挙区制、3円

大戦景気の影響で大正時代は貧富の格差が明治時代以上に急拡大してしまいました。このような中で、ロシア革命のように暴力的に社会主義革命を目指す動きが生まれてきていました。普通選挙は社会主義勢力の台頭を招くと恐れ、原は普通選挙を支持しませんでした。

ドイツが降伏して第一次世界大戦が終結しました。

1919 パリ講和会議

日本全権は西園寺公望(と牧野伸顕)です。西園寺はパリ留学経験がありましたね。

1919 ヴェルサイユ条約

・日本は山東省におけるドイツ権益の継承を列国より承認されました。原敬日記によれば中華民国に還付するのが道理と考えていましたが、会議で認められました。
・日本は旧ドイツ領南洋諸島について、領有でなく、

南洋諸島の委任統治権 を獲得

委任統治機関として南洋庁を設置(内務省管轄)。
南洋庁職員に『山月記』の中島敦がいました。

・アメリカ大統領ウィルソンの提唱で国際連盟が設立
「民族自決」の原則を定めました。しかし非ヨーロッパには適用されませんでした。

・敗戦国ドイツに巨額の「天文学的賠償金」が課せられる
・ドイツ権益は戦勝国の中華民国に返還されるものと思っていた中国世論は激昂、中華民国(段祺瑞政権)も条約調印を拒否しました。

1919 朝鮮

三一独立運動

民族自決の原則を聞いた朝鮮民族が独立万歳を唱えながら、おおむね平和的にデモ行進を行いました(万歳事件とも)。ちょうど旧朝鮮皇帝高宗の葬儀が3月3日に予定されていたので、それをもって大規模化しました。しかし朝鮮総督府は憲兵を出動させて鎮圧、多数の死傷者を出しました。

1919 中国

五四運動

中腰で運動

山東省のドイツ権益が返還されないことに激昂した北京大学生ら若者が立ち上がりました。孫文も感激しました。

植民地政策の若干の修正(文化政治)

軍人に限られていた朝鮮総督の任用資格を文官にまで広げました。
憲兵制度を廃止して警察を置き、朝鮮人警察官も多数採用しました。

1920 尼港事件

シベリアの港町ニコラエフスクには約3万人の日本人が居住していましたが、ソ連政権に味方するバルチザンと旧ロシア帝国の残党軍の戦いが続いていて、強盗団を兼ねたバルチザンによって多数の日本人が虐殺された事件です。この謝罪がないままシベリア出兵をやめることはできないと軍部や世論は激昂しました。

鉄道 の整備(鉄道省 の設置)

原内閣の公約は、地方経済を発展させるために、都市部と地方を鉄道で結ぶ積極政策です。立憲政友会を支持する選挙区を優先的に鉄道整備し、党利党略と批判も浴びました(我田引水になぞられて「我田引鉄」といわれました)

1920 戦後恐慌

世界大戦が終結し、ヨーロッパ製品が市場に復帰してきました。日本の輸出は再び不振になりました。

1921 原敬暗殺(東京駅)、高橋是清内閣へ

在職中に殺害された最初の総理大臣となりました。